



2021年4月16日

**令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞を
本学 IT 活用教育センター 市坪 誠 教授が受賞しました。**

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めております。

この度、令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が決定し、本学 IT 活用教育センター／高専連携推進センター 市坪 誠 教授が科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。

<受賞者>

【科学技術賞】（理解増進部門）

業績名：「SDGs 達成に向けた科学技術教育の理解増進と普及啓発」

氏 名：市坪 誠（いちつぼ まこと）

所 属：豊橋技術科学大学 IT 活用教育センター／高専連携推進センター 教授

氏 名：山口 隆司（やまぐち たかし）

所 属：長岡技術科学大学 技学研究院 教授

氏 名：勝身 麻美（かつみ まみ）

所 属：長岡技術科学大学 UEA（エデュケーション・アドミニストレーター）



市坪 誠教授

※成果の概要については別紙をご参照ください。

また、科学技術賞、若手科学者賞、研究支援賞の表彰式は次のとおり行います。

日 時：令和3年4月14日（水）12時10分から

場 所：文部科学省3階 講堂

実施方法：7組の代表グループによる対面での表彰式を行います。同時に、希望する受賞者が視聴できるよう、表彰式の様子をオンラインでライブ配信します。（後日、映像を YouTube にアップロード）

【ご参考】文部科学省：https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00547.html

「SDGs 達成に向けた科学技術教育の理解増進と普及啓発」

<概要>

豊橋、長岡の両技科大と高専機構が長年進めてきた三機関連携をさらに加速させ、SDGs 達成に向けた科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行い、我が国の科学技術水準の向上に寄与した。

<詳細>

■成果の特徴、従来技術との相違等

初等中等教育から高等教育まで、SDGs を自分ごととして捉え持続可能な開発を担う課題解決力の育成が求められている。本活動では、高専及び技科大の学生が地域課題解決の主体者となって、SDGs 達成に貢献する教育ゲームの開発や地域イベントの開催とともに、自治体等と連携した科学技術への理解を高める教育活動、国内外と連携したSDGs 人材育成プログラム構築等を実施し、地域を場としたSDGs 教育システムとして機能することとなった。

■社会的効果・実施効果

本活動により、SDGs 教育ゲームや科学教室等を通じ親しみながら科学技術とSDGs に触れる機会を創出し、地域社会へのSDGs の認知度を高め、SDGs が「自分ごと」であり、科学技術によりSDGs 達成に貢献できることの意識を市民や地域に広めた。本活動は、SDGs を通じた科学技術への関心及び科学技術教育に対する理解増進に寄与することとなった。

<今後の展望>

両技科大・高専が強く連携した体制を整備し、そのリソースを活用して地域産業や地方自治体が抱える課題の解決や人材育成に取り組むこととなる。こうした取り組みを行うことで、地域が抱えるSDGs に触れる機会を創出し、地域社会へのSDGs の認知度を高めると共に、SDGs を「自分ごと」であるという意識を地域社会に広めるなど、SDGs 達成に向けた教育研究活動及び社会貢献活動をさらに進めることとなる。

個別取材も対応しますので、ご要望等ありましたら以下までご連絡ください。

本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・高柳

TEL:0532-44-6506 FAX : 0532-44-1270

Email: kouho@office.tut.ac.jp

「SDGs達成に向けた科学技術教育の理解増進と普及啓発」

(1) 成果の内容

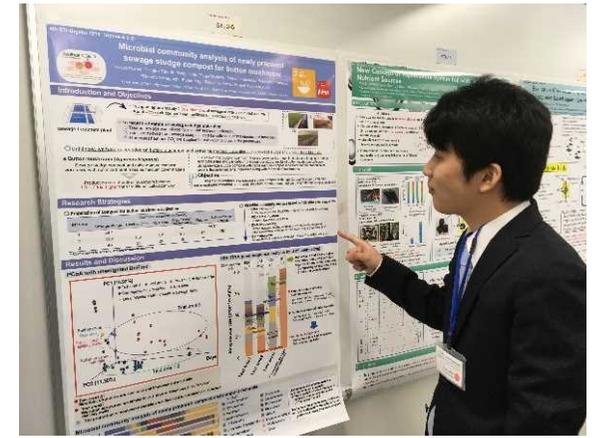
豊橋、長岡の両技科大と高専機構が長年進めてきた三機関連携をさらに加速させ、SDGs達成に向けた科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行い、我が国の科学技術水準の向上に寄与した。

(2) 成果の特徴、従来技術との相違等

初等中等教育から高等教育まで、SDGsを自分ごととして捉え持続可能な開発を担う課題解決力の育成が求められている。本活動では、高専及び技科大の学生が地域課題解決の主体者となって、SDGs達成に貢献する教育ゲームの開発や地域イベントの開催とともに、自治体等と連携した科学技術への理解を高める教育活動、国内外と連携したSDGs人材育成プログラム構築等を実施し、地域を場としたSDGs教育システムとして機能することとなった。

(3) 社会的効果・実施効果

本活動により、SDGs教育ゲームや科学教室等を通じ親しみながら科学技術とSDGsに触れる機会を創出し、地域社会へのSDGsの認知度を高め、SDGsが「自分ごと」であり、科学技術によりSDGs達成に貢献できることの意識を市民や地域に広めた。本活動は、SDGsを通じた科学技術への関心及び科学技術教育に対する理解増進に寄与することとなった。



技科大と高専とが連携することで、学生が主体者となって地域（資源、人材等）を巻き込み、全国の地域課題を発見してこれを解決する取組。SDGs教育を踏まえ、学生自ら専門能力と分野横断能力を涵養する人材育成システムであり、我が国の科学技術水準の向上に大きく貢献。